

平成30年度(2018年度)

管理事業名	道路事業			総合計画の体系	第6章 安全で魅力的なまちづくり 第2節 暮らしや都市活動を支える基盤づくり ほか
主な歳出予算科目	一般会計	(款) 8	土木費	(項) 5	都市計画費 (目) 12 南吹田駅前線道路新設費
部局名	土木部	予算執行所属	地域整備推進室 道路室 総務交通室		
予算大事業名	都市計画道路南吹田駅前線立体交差事業		上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名 (款)土木費(項)道路橋梁費(目)道路維持費 路線道路補修事業 (款)土木費(項)道路橋梁費(目)道路維持費 道路経常管理事業 (款)土木費(項)都市計画費(目)岸部中千里丘線道路新設費 都市計画道路岸部中千里丘線道路新設事業 ほか		
<b>事業の目的と概要</b> <b>【目的】</b> 道路事業では、都市計画道路の整備、市道の維持管理及び修繕等を行っています。 都市計画道路の整備及び市道の適正管理等により道路機能の向上を図り、誰もが安全で快適に利用できる道路環境の整備を目指します。 <b>【概要】</b> ・都市計画道路の整備に係る事務 都市計画道路南吹田駅前線、岸部中千里丘線の新設事業を実施しています。 ・道路維持管理に係る事務 市道の清掃、エレベーター等道路付属施設の維持点検業務等を実施しています。 ・道路の補修に係る事務 市道や橋梁の劣化等損傷箇所について、点検や、結果等に基づく修繕を実施しています。					

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	成果指標の定義
舗装更新面積	m <sup>2</sup>	31,224	31,193	28,549	各年度に施工した、舗装更新面積の合計
都市計画道路南吹田駅前線事業進捗率	%	57.3	74.3	100.0	都市計画道路南吹田駅前線の事業費総額における各年度の事業費累計の割合
成果の説明	供用性能が低下した道路の舗装を更新しました。道路ストック総点検事業で実施した、路面性状調査によって把握した劣化損傷状態等により、更新時期を決定し、優先順位の高い箇所から順に更新しています。平成30年度は、地下埋設物工事との調整により、舗装更新面積が減少しています。都市計画道路南吹田駅前線の事業進捗は100%で、平成30年度に供用を開始しました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成28年度	平成29年度	平成30年度	差額
		A	B	B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
<b>使用料及び手数料</b>	<b>368,964</b>	<b>371,417</b>	<b>379,639</b>	<b>8,223</b>
国庫支出金(経常費用充当)	66,174	12,100	-	△12,100
府支出金(経常費用充当)	6,885	6,480	4,041	△2,439
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	313,314	2,307,635	1,915,235	△392,400
経常収入 小計(a)	755,337	2,697,632	2,298,916	△398,716
給与関係費	493,402	502,081	497,296	△4,785
<b>物件費</b>	<b>2,423,919</b>	<b>731,937</b>	<b>1,526,600</b>	<b>794,663</b>
維持補修費	668,615	600,946	469,761	△131,184
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	54,458	34,711	22,222	△12,489
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	2,215,262	2,237,776	2,267,974	30,198
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	36,923	38,691	39,184	493
退職手当引当金繰入額	52,587	37,305	17,947	△19,358
支払利息	13,498	11,458	10,248	△1,210
その他	204	1,212	2,765	1,554
経常費用 小計(b)	5,958,869	4,196,115	4,853,997	657,882
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△5,203,532	△1,498,483	△2,555,081	△1,056,598
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
<b>その他</b>	<b>1,444,346</b>	<b>825,822</b>	<b>5,164,271</b>	<b>4,338,449</b>
特別収入 小計(d)	1,444,346	825,822	5,164,271	4,338,449
特別費用	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-
その他	-	-	208,930	208,930
特別支出 小計(e)	-	-	208,930	208,930
特別収支差額(d)-(e)=(f)	1,444,346	825,822	4,955,341	4,129,519
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△3,759,185	△672,661	2,400,260	3,072,921
一般財源充当額	2,196,810	3,074,175	2,498,951	△575,224
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	△1,562,376	2,401,514	4,899,212	2,497,697

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
使用料及び手数料	道路占用料 378,692千円ほか
物件費	都市計画道路南吹田駅前線立体交差事業の委託料 717,644千円ほか
特別収入(その他)	都市計画道路岸部中千里丘線道路新設事業国庫支出金 349,000千円、都市計画道路南吹田駅前線立体交差事業国庫支出金 339,840千円ほか

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	差額
		A	B	B-A
<b>行政サービス活動収入</b>	<b>755,040</b>	<b>934,630</b>	<b>599,105</b>	<b>△335,525</b>
行政サービス活動支出	3,727,833	1,959,782	2,607,903	648,121
行政サービス活動収支差額	△2,972,793	△1,025,152	△2,008,798	△983,646
<b>投資活動収入</b>	<b>1,595,667</b>	<b>1,356,147</b>	<b>2,150,382</b>	<b>794,235</b>
投資活動支出	1,081,726	3,611,033	3,178,885	△432,148
投資活動収支差額	513,940	△2,254,886	△1,028,503	1,226,383
財務活動収入	404,400	329,000	679,300	350,300
財務活動支出	142,357	123,137	140,951	17,814
財務活動収支差額	262,043	205,863	538,349	332,486
収支差額 合計	△2,196,810	△3,074,175	△2,498,951	575,224
一般財源充当額	2,196,810	3,074,175	2,498,951	△575,224
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	(行政サービス活動支出)
南吹田架道橋新設工事委託料ほか(投資活動収入)	
都市計画施設整備基金繰入金、国庫支出金ほか	

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
市民1人あたりのコスト	平成28年度	369,522 人	16,126 円	市民1人あたり 13,082円のコストがかかっています。平成31年3月31日現在の吹田市人口で算出しています。
	平成29年度	370,072 人	11,339 円	
	平成30年度	371,030 人	13,082 円	
市道1mあたりのコスト	平成28年度	533,338 m	11,173 円	市道1mあたり 9,071円のコストがかかっています。平成30年4月1日調製の道路延長で算出しています。
	平成29年度	534,533 m	7,850 円	
	平成30年度	535,118 m	9,071 円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成29年度末 A	平成30年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	179,642	270,911	91,270
未収金	-	-	-	地方債	138,393	229,336	90,943
財政調整基金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
短期貸付金	-	-	-	賞与引当金	38,691	39,184	493
徴収不能引当金	-	-	-	未払金	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	リース債務	2,558	2,392	△166
有形固定資産	15,462,158	5,486,762	△9,975,396	その他流動負債	-	-	-
土地	3,918,342	2,859,827	△1,058,515	固定負債	2,878,820	3,303,194	424,373
建物・工作物	2,650,701	2,570,321	△80,380	地方債	2,458,654	2,908,618	449,964
リース資産	7,338	4,784	△2,554	長期借入金	-	-	-
建設仮勘定	8,885,778	51,831	△8,833,947	退職手当引当金	415,382	392,184	△23,199
無形固定資産	1,193	1,123	△71	リース債務	4,784	2,392	△2,392
有形固定資産	805,139,946	823,484,777	18,344,831	その他固定負債	-	-	-
土地	764,778,931	771,165,472	6,386,541	負債の部合計	3,058,462	3,574,105	515,643
建物・工作物	40,356,295	52,276,720	11,920,425	純資産	817,544,836	825,398,556	7,853,721
建設仮勘定	4,720	42,584	37,865	重要物品	-	0	0
重要物品	0	0	0	図書館資料	-	-	-
図書館資料	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	出資金	-	-	-
出資金	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	基金	-	-	-
基金	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	その他債権	-	-	-
その他債権	-	-	-	資産の部合計	820,603,297	828,972,662	8,369,364
資産の部合計	820,603,297	828,972,662	8,369,364	負債及び純資産の部合計	820,603,297	828,972,662	8,369,364

Ⅲ 財務構造分析

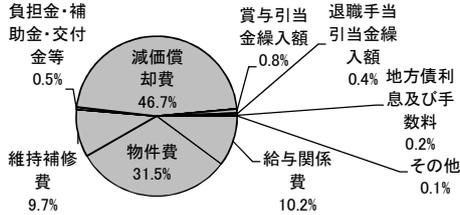
▽人にかかるコストの内訳

事業従事人数	常勤・再任用 月平均	非常勤 月平均	臨時雇員 年間従事延日数	審議会委員等 実人数	合計(千円)
59人	59人		4,618日		554,427
給与関係費等	508,805千円		45,622千円		
内、時間外勤務手当	27,702千円				

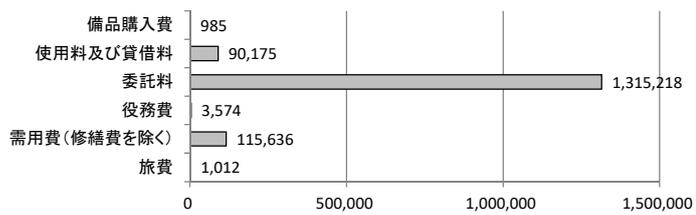
貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
事業用資産 建設仮勘定	都市計画道路岸部中千里丘線道路新設事業 △1,245,625千円、都市計画道路南吹田駅前線立体交差事業 △7,562,877千円 ほか
インフラ資産 土地	寄附、所管換え等による道路用地の帰属等 6,413,949千円増及び所管換えによる減△27,408千円。差引6,386,541千円増
インフラ資産 工作物	所管換え及び改良工事等による14,106,220千円の増及び減価償却による減△2,185,795千円。差引11,920,425千円増

▽経常費用の構成割合



物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

市道路線の延長	535,118m
取得年月日	平成30年4月1日調製
建物・工作物の取得価額	131,400,899 千円
建物・工作物の減価償却累計額	76,553,858 千円
利用料金収入	378,692 千円

▽分析指標

分析指標	年度			差 B-A
	平成28年度	平成29年度 A	平成30年度 B	
施設維持補修費比率	0.6	0.5	0.4	△ 0.1
施設老化比率	61.9	63.3	58.3	△ 5.0
受益者負担比率	6.2	8.9	7.8	△ 1.1
徴収不能引当率	-	-	-	-
一般財源充当比率	44.4	54.0	42.2	△ 11.8
経常費用対公共資産比率	5.1	3.6	3.7	0.1

【参考:市保有施設全体の老化比率は56.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

【行政コスト計算書及び経常費用の構成割合】多くの資産を管理する事業のため、減価償却費が占める割合が高く2,267,974千円(46.7%)とコスト全体の半数近くを占めています。その他主なものとしては、物件費が1,526,600円(31.5%)、維持補修費が469,761千円(9.7%)です。物件費の内訳としては、都市計画道路南吹田駅前線立体交差事業の委託料が717,644千円(47.0%)、道路施設管理に係る委託料等が462,395千円(30.3%)を占めています。【施設の老化比率】施設老化比率は58.3%となり、昨年度より△5.0減少していますが、これは老化が改善されたためではなく、二大新事業である都市計画道路南吹田駅前線、岸部中千里丘線の完成を受けたものです。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

道路事業は、新規道路の整備費、既設道路の補修工事費のほか、多数のインフラ施設を保有しているため経常的な維持管理経費に加え、老化が進む施設の維持補修費が主な支出となっています。行政コスト計算書に示される△131,184千円の維持補修費の減少については、主に受託復旧工事費の減少であり、当該工事数は申請件数によって変動するため、行政コスト計算書に見える維持補修費の減少をもって安全性の低下を示すものではありません。また、当事業では都市計画道路の整備工事を実施しています。平成30年度は都市計画道路南吹田駅前線、岸部中千里丘線の供用を開始しました。インフラ資産の増加に見合う維持補修費を将来的に確保していくことが課題です。その他、道路周辺のみどり豊かな環境づくりも重要事項だと考えており、街路樹の剪定等、これらにかかる経費である物件費の確保も必須です。物件費削減は、吹田市全体のブランドイメージの低下につながります。維持補修費に限らず、物件費の適切な執行及び予算確保もまた本事業における課題のひとつです。当事業は一般財源に依存している事業ですが、国庫補助金等、他の財源についても確保できるよう、情報収集に努めることが必要であると考えています。